



## 「カーター・ワークプロジェクト」今年はネパールで開催！

ハビタットは毎年、「カーター・ワークプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、ジミー・カーター元アメリカ大統領夫妻の呼びかけに応じ、世界中からボランティアがプロジェクト現場に集結し、約1週間をかけた数百軒の家を建築するイベントです。32回目の実施となる今年は、11月1日～6日の6日間、ネパールのポカラで開催されることが決定しました。

ヒマラヤ山脈の麓にあり、世界で最も貧しい国の一つと言われるネパール。ハビタット・ジャパンは、日本からネパールへの支援を届けるため、様々なチャレンジを行います。ぜひご参加ください。



### こんなチャレンジを予定しています！

ハンマーくんが行く！  
世界をめぐる  
希望の金槌と  
いいことしよう。



ボランティアツアー  
「2,000人で100軒！  
ヒマラヤの麓で  
ボランティア  
7日間」



カーター夫妻の  
お食事会へ  
ご招待。



ネパール料理を  
食べながら  
考えナイト！



## 世界の住まいの問題に、みんなで立ち向かおう。

適切な住まいで暮らせずにいる人々は世界中で16億人のほり、そのうちの半数が私達が暮らすアジア太平洋地域にいます。アジア太平洋地域の若者たちが力を合わせ、世界の貧困住居問題に立ち向かおうというキャンペーンが、Habitat Youth BUILD (HYB) です。今年4回目の開催となるHYBは、「プレイ・アクト・シェア」というスローガンを掲げる3ヶ月間のキャンペーンで、2014年

12月5日に開幕しました。前回は11か国で80万人のボランティアを動員し、1,700世帯の家族の支援を行いました。今回はその規模を更に広げ、過去最高となる15カ国が参加しています。この春は、日本から400名近い学生達が海外住居建築ボランティア活動に参加しました。またチャリティイベントや全国合同募金活動などを通して、貧困住居問題解決のため世界の仲間たちと共に声をあげました。

Play・Act・Share!



日本各地で行われた募金活動



日本からも3名がこのカンボジアHYBに参加



京都外大のインドGVチームの写真

## TOPICS

HFHJ Newsletter 34

### 海外で家を作るボランティア募集中！

ハビタットが実施するGlobal Village (GV) は、海外で現地の家族と一緒に家を作るボランティア活動です。建築の知識や大工スキルはいりません。ハビタットのスタッフと地元の技術者の指導のもと、初めての方でも建築作業に参加することができます。日本語を話すスタッフも同行するので、英語が苦手でも、海外が初めてでも安心です。おひとり参加するのもよし、友人や家族と参加するのもよし。新しい仲間と新しい発見を得る支援活動の旅に出かけませんか？



#### 1 カンボジアの家族と家建てよう

8日間  
H.I.Sとの共同企画プログラムです。バタンバンでの活動を予定しています。日程には世界遺産アンコールワット観光も含まれる予定です。  
活動場所 バタンバン (カンボジア)  
活動日程 2015年8月22日(土)～8月29日(土)  
活動内容 現地の家族とともに、住居の建築を行う  
参加費用 199,000円～23,4000円 (申し込み時期などによる)

#### 2 タイの家族と一緒に家を作る

8日間  
地球の歩き方、旅行会社エスティエートラベルとの共同企画プログラムです。チェンマイ市での活動を予定しています。  
活動場所 チェンマイ(タイ)  
活動日程 2015年8月26日(水)～9月2日(水)  
活動内容 現地の家族とともに、住居の建築を行う  
参加費用 196,000円

詳しくはハビタット・ジャパンのホームページへ！

#### ハビタット・ジャパンのTシャツが新しくなりました！

今回のTシャツは、ハビタット・カラーのひとつであるグリーン。新芽の緑を思わせるこの色は、これからはじまる新しいハビタット・ジャパンの取り組みを象徴しています。シンプルなデザインは、どこに着て行ってもOK！この春、あなたのワードローブにさわやかなグリーンを加えてみませんか？

ご注文は、ウェブサイトより  
[http://www.habitatjp.org/web\\_to\\_lead/2014/08/habitatgoods.html](http://www.habitatjp.org/web_to_lead/2014/08/habitatgoods.html)

今月の

## ハビびと

ハビタット・ジャパンで活動する、熱き人々



鎌田 安里紗さん  
モデル・タレント



ホームパートナーのお母さんと

「ファンのみならずスタディーツアーに行きたい」そんなわたしの想いに共感してくれたハビタット・ジャパンとのコラボレーションで、カンボジア・バタンバンでのGVが実現しました。

家は、安らぎとパワーを私たちに与えてくれます。しかし、家の大切さは、あまりにも当たり前であるがゆえに、日本ではあまり意識されることがありません。今回のGVを通して、わたしを含め参加者のみんなが、家の大切さや、見落としがちな日常の小さな喜びを再発見できたように思います。

また、ホームパートナーさんとの関わりや現地の方との共同作業を通して、人はこんなにもあたたかいんだということを改めて知ることが出来ました。ホームパートナーさんを想って「家族や友達以外の人のしあわせをこんなにも願ったのは初めて」と話す参加者の女の子の言葉が忘れられません。自分や自分の周りの人以外のしあわせを願うことから世界は平和になっていくだろうとわたしは思います。



市ヶ谷で迎えるはじめての春。いつもは足早に通勤するスタッフも、お堀沿いの桜の美しいピンクに魅了され、心なしかオフィスへの歩みがゆっくりになった気がします。デスクから窓越しに見えるのは、桜の木の下で思い思いに過ごす人々。中には、新入生・社員でしょうか、新しく、すし窮屈なスーツを身にまとった人々もいます。はじまりの季節とはいいますが、特別なことがないと、リセットボタンを押す機会を逃しがちな春。美しい木々と緊張した面々のコントラストに、「初心忘れずべからず」と思い出させられました。そんな住居支援への決意を新たにお届けする今回のニュースレター、限りなく青い春空の下、皆様にお楽しみいただけることを願っております。(M)

編集  
後記



特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン  
〒162-0843 東京都新宿区山谷町 2-7-15 近代科学社ビル3階  
Tel: (03)-5579-2550 Fax: (03)-5579-2551  
E-mail: info@habitatjp.org URL: http://www.habitatjp.org

ハビタット・フォー・ヒューマニティは、住宅支援を通してコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく世界約80の国で60万軒余の住宅建築支援を行ってきました。

# HFHJ News Letter

# 34

2015 April



ハビタット・ジャパン ニュースレター  
第34号 2015年4月発行

活動の現場から

## 東北と歩んだ4年間

カーター・ワークプロジェクト モデル・鎌田安里紗さんインタビュー

## 4年間の軌跡

2011



ハビタットが被災地に入ったのは3月でした。最初の一年間は、まずがれきや泥を片付けて道や宅地をきれいにし、たくさんのボランティアの皆さんと一緒に汗まみれになりながら、自分たちにできることは何かと模索しました。ただひたすらに被災された方々の声に耳を傾け、その心に寄り添いながら歩んだ1年目。寒い東北の冬を少しでも温かく過ごせるようにと、仮設住宅に移る方々や仮設に入れず壊れたままの自宅に留まっていた方々に、布団や暖房器具を配布しました。

- がれき・泥の撤去作業 (岩手県大船渡市・陸前高田市、宮城県石巻市)
- 仮設住宅への布団の配布 (宮城県女川町)
- みなし仮設への暖房器具の配布 (宮城県東松島市)
- 在宅被災者宅への暖房器具の配布 (宮城県東松島市)
- 被災住居の修繕 (岩手県大船渡市)

2013



岩手県に続いて宮城県でも住宅修繕を始めました。また、仮設住宅からの移転を検討する方が日増しに増え、元の自宅に戻れるのか、高台に移転すべきか、住宅ローンの問題はどうすべきかなど、各家庭の状況に応じて様々な制度や選択肢を紹介するコンサルティングも行いました。

- 被災住居の修繕 (宮城県東松島市)
- 住まいのコンサルティング (岩手県大船渡市、宮城県東松島市)
- ソーラー設置支援 (岩手県大船渡市)
- 仮設住宅での支援活動 (岩手県大船渡市、宮城県多賀城市・東松島市)
- その他コミュニティ支援

2012



震災から一年が過ぎたころから、ハビタットは変化していく現場のニーズに応えるため様々な活動を行いました。岩手県では被災した住居の修繕を行いました。また、宮城県では少しでも仮設住宅の住環境が良くなるようにと、縁台やひさしを取り付けました。さらに、人々が再び集うことができる場所を、との声に応じて公民館を修繕し、東屋を建築しました。学校が被災したために、遠くの校舎までスクールバスで通うことになった子供たちが、安全に登校できるようにスクールバスの停留所に小屋を作り、漁師さんが漁業の営みを再開できるよう漁師小屋も建築しました。

- 被災住居の修繕 (岩手県大船渡市)
- 住まいのコンサルティング (岩手県大船渡市)
- 被災公民館の修繕 (宮城県東松島市・名取市)
- スクールバス停留所の建築 (岩手県大船渡市、宮城県東松島市)
- 漁師小屋の建築 (宮城県女川町)
- 東屋建築 (宮城県石巻市・名取市)
- 仮設住宅での支援活動 (岩手県大船渡市・陸前高田市、宮城県石巻市・女川町・多賀城市・東松島市)
- その他コミュニティ支援

2014-15



東日本大震災では、沿岸地域の被害が最も大きかったとされ、全国から大きな注目が寄せられました。その一方で、内陸部では、地震のマグニチュードは沿岸部より大きかったにも関わらず、津波による被害がなかったため、支援がなかなか届かないままでした。家が崩壊せずに残り、外観は問題ないようでも、実は地震による被害が基礎や構造体に及び、危険な状態になってしまった家屋。そのような自宅のまま暮らしていた方も内陸部の自治体には多いことがわかり、地震により被災した住居の修繕を行いました。少ない資金で自宅をホームパートナーが自ら新築するセルフビルド支援は、全国から集まったボランティアの皆さんの協力を得ることで実現しました。多くの方々よりご協力をいただき、無事に完成することができました。

- セルフビルド支援 (岩手県大船渡市)
- 内陸部自治体における被災住居の修繕 (宮城県大郷町・東松島市・美里町・涌谷町)
- 住まいのコンサルティング (岩手県大船渡市)
- 地震による内陸部被災家屋に関するアドボカシー (宮城県大郷町・美里町・涌谷町)
- ソーラー設置後の売電利益を通じたコミュニティ支援 (岩手県大船渡市)
- その他のコミュニティ支援 (岩手県大船渡市、宮城県女川町・東松島市)

# 東北と歩んだ4年間

ハビタット・ジャパンは、2011年3月に東日本大震災緊急支援プログラムを開始し、2015年3月まで岩手・宮城の両県で復興支援活動を続けてまいりました。4年の長きにわたったこの活動を支えてくださった支援者・ボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。

Thank you!!



完成した佐藤さんのお宅

1 リビングルームで談話。来客の絶えない明るいおうちです。

2 スタンドグラスは、新居祝いに地元の友人から贈られたものです。

3 佐藤さんが、毎晩「漁師飯」をつくっています。得意料理は、あら汁です。

間取り図



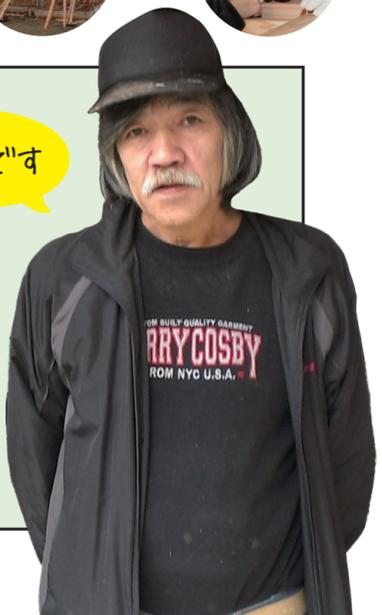
5 ベッドルームには光が沢山入ります。



4 和室で一息つくお母様。



本当に幸せです



## 佐藤さんインタビュー

新居への引越しが終わったばかりの佐藤さんを、ハビタット・ジャパンのスタッフが訪ねました。スタッフが足を踏み入れたのは、一緒にコンクリートを流す作業や、断熱材を切る作業を行った現場の風景からは想像できないほど生活感があふれる「我が家」でした。家の中を見せていただいた後、セルフビルドを完成した佐藤さんの心境をうかがいました。

### Q1 引越し当日は、どのようなお気持ちでしたか？

正直言って、引越しの日には、バタバタしていてあまり考える暇がありませんでした。母親の体調があまりよくなかったので、仮設住宅で冬を越してから新居に移ろうと思っていましたが、彼女の強い希望があったため、大安の日に着いて引越したからです。でも入居してみて、やっぱり一軒家はいいなと思いました。壁の薄い仮設住宅と違い、周りを気にしないでいいし、**本当に安心できます。**

### Q2 地域の人やボランティアと一緒に建てた家に住むのは、どんな気持ちですか？

本当に幸せです。ここは（指をさしながら）あの人がやったな、あそこはあの人がやったなとか、普段の生活の中でもいつも思い出しています。実は、今でも毎日作業日誌とアルバムを見るのが日課です。この日にはこんな人が来たな、あんな人が来たな。私にとって、この家は、**隔々まで思い出**でできているんです。

### Q3 佐藤さんにとって「家」ってなんですか？

原点、かな。母親のおなかの中みたいに、**すべては家から始まる**からです。

### Q4 最後にボランティアさんにひとことお願いします。

うーん・・・（考え込み）ただただ、感謝の想いにつきます。そして、三陸に来た際には是非寄ってくださいと伝えたいです。ボランティアに来てくれた皆さんのこと、**大切に覚えています！**